

# 学びと誇りが実感できるまち

～恵まれた自然環境にふれ

昆虫や植物を調べよう！～

令和3年8月号

庄原市教育委員会  
教育長 牧原 明人



貰ひ来る茶碗の中の金魚かな (内藤鳴雪)

先月7月17日(土)に、田園文化センターにおいて、「子供司書」養成講座の全体研修を行いました。対象は小学校5・6年生で、本年度は17名が子供司書に挑戦します。子供司書は、子供たちの読書活動を進めるリーダーとして活躍できるように、図書館や学校で様々な活動を行っていきます。特に、本をしっかり読み、読み聞かせやポップづくり、工夫した作品の掲示やコーナーづくりなどを行い、自分も友達ももっともっと読書好きになる活動を行っていきます。

なお、この子供司書養成の活動は平成25年から始めており、本市ではこれまで県教育委員会から105名が認定されています。

さて、今回は、恵まれている自然環境の中で、身近な昆虫や植物に関心を持ち、調べ、新たな楽しみを見つけようという提案です。

私たちが子供の頃は、夏休みになると、よく網やかごをもってセミやクワガタなどをとりに行っていたものです。またその道中にある植物について、新しく見つけた草花があれば、なぜその場所に咲くのか、群生となっているのかなど図鑑で調べていました。

先日、近くの公園を歩いているとある親子がセミを見つけ、会話のはずむ声が聞こえてきました。その一部を紹介します。

## ある親子の会話

少年「あの鳴き声は何ゼミ？ ぼくの家の周りで鳴くのと違うね。」

母「クマゼミとは違うね。何ゼミかね。」

少年「ほら、見て見て。あそこにもあそこにもいるよ。下の方にもいるよ。」

母「そーと近づいたらとれるよ。とってごらん。」

※ 少年が近づいてとろうとするけどセミは逃げる。その後、お母さんが手でとる。

母「こうやってとるんよ。」 少年「お母さん！すごい！」

母「アブラゼミよ。でもこれは鳴かないね。メスだからよ。」

少年「えっ、メスは鳴かないの。じゃあ、オスもとりたいなあ。」

※ しばらくしてオスのセミをとり、親子一緒にセミの観察をする。

・・・(省略)・・・

最近では、こうした親子でセミとりをする光景をあまり見かけなくなりました。危険な場所は回避しながら、家族などで、身近にある山や川を訪ね、昆虫や植物を見つけ、新しい発見をすると楽しくなります。